

ACG032-12

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月26日11:50-12:03

別府湾海底堆積物における過去2000年間のカタクチイワシ・マイワシ魚鱗記録

A 2000-year record of anchovy and sardine fossil scale abundances from the Beppu Bay sediments

加 三千宣^{1*}, 松本洋輔², 佐川 拓也¹, 杉本隆成³, 武岡英隆⁴

Michinobu Kuwae^{1*}, Yousuke Matsumoto², Takuya Sagawa¹, Takashige Sugimoto³, Hidetaka Takeoka⁴

¹愛媛大学上級研究員センター, ²愛媛大学工学部, ³東海大学海洋学部, ⁴愛媛大学CMES

¹SRFC, Ehime Univ., ²Faculty of Engineering, Ehime Univ., ³Mar. Sci. Tech., Tokai Univ., ⁴CMES, Ehime Univ.

日本沿岸に分布するイワシ類資源の長期動態を明らかにすることは、「大気-海洋-海洋生態系」という一連のシステムに見られるレジームシフトの長期的な実態と今後のイワシ類の将来予測に関する知見を見い出すことにつながる。そこで本研究では、別府湾において海底堆積物中の魚鱗アバundanceをこれまでになく高時間解像度で調べた。

過去2000年間にわたって、50年程度のスケールで魚鱗アバundance変動がカタクチイワシ・マイワシともに認められた。仮に堆積速度に大きな変化が見られないとすれば、この変動は50年スケールのイワシ類の資源変動が過去2000年間にわたって存在することを意味する。また、カタクチイワシ・マイワシの魚種交替現象に注目すると、過去2000年間で両種の魚種交替はほとんど認められないこともわかった。今後、年縞の精密な解析を行えば、レジームシフトに深く関わる魚種交替現象の長期的な実態が明らかになるだろう。

キーワード: 魚鱗堆積量, カタクチイワシ・マイワシ, 別府湾, 魚種交替, レジームシフト

Keywords: fossil scale abundance, anchovy and sardine, Beppu Bay, species alternations, regime shift